

2025年度事業報告

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月 31日

I. 概況

1. 全体景況

我が国経済は、賃上げ率が2年連続で5%を上回るなど、「デフレ・コストカット型経済」から、その先にある新たな「成長型経済」に移行する段階まで来た。

足元の景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心に見られるものの、緩やかに回復している。しかし、潜在成長力は伸び悩み、賃金の伸びは物価上昇に追いつかず、食料品を中心とした物価上昇により、個人消費は力強さを欠いている。

こうした現状に対し、まずは、生活の安全保障・物価高への対応、危機管理投資・成長投資による「強い経済」の実現、防衛力と外交力の強化を3つの柱とする「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日閣議決定。以下「総合経済対策」という。）を策定した。その裏付けとなる令和7年度補正予算（令和7年12月16日成立）を迅速かつ着実に執行し、総合経済対策の効果を広く波及させていく。

令和7年度の我が国経済は、今後も緩やかな回復を続け、実質国内総生産（実質GDP）成長率は1.1%程度、名目国内総生産（名目GDP）成長率は4.2%程度、消費者物価（総合）は2.6%程度の上昇率になると見込まれる。

（出典：令和8年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度、令和7年12月24日閣議了解）

2. 鑄造業界の動向

- （1）鑄造業の2025年の生産金額（ダイカストを除く）は、1兆4,073億円で対前年比2.7%増、生産量は365万トンで同1.3%増となり、金額、生産量ともに増加となった。
- （2）代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、8,214億円、同1.8%増と5年連続で8千億円を上回った。生産量は291万トン、同1.5%増となり、金額は2年ぶり、生産量は4年ぶりに増加となった。鑄鋼は生産金額が895億円、同8.1%減、生産量が106千トン、同7.8%減と、金額、重量ともに減少した。
- （3）非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）は、銅合金鑄物の生産金額が1,177億円、同10.5%増と5年連続増加、生産量は59千トン、同3.3%増となったが6年連続で6万トンを下回った。また、アルミニウム鑄物は2.966億円、同3.5%増、生産量は366千トン、同0.7%増と金額、生産量とも増加した。この結果、2025年の全生産金額（ダイカストを含む）に占める非鉄鑄物比率は、53.2%となり、11年連続して50%を超えている。

表 1. 鋳造品の生産額推移

単位：億円、()：対前年比%

| 年 | 鋳鉄鋳物 | 鋳 鋼 | 銅合金 | アルミ鋳物 | 精密鋳造品 | ダイカスト |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|---------------|
| 2000 | 9,055 (102.1) | 1,377 (109.7) | 700 (99.5) | 2,888 (103.2) | 471 (117.4) | 4,655 (106.3) |
| 2005 | 9,130 (107.5) | 1,434 (117.2) | 823 (98.7) | 2,791 (107.3) | 463 (105.5) | 6,000 (108.9) |
| 2010 | 8,509 (125.7) | 1,367 (103.0) | 958 (114.1) | 2,631 (126.9) | 514 (118.4) | 5,765 (130.0) |
| 2015 | 8,198 (97.8) | 1,183 (98.6) | 966 (101.5) | 2,850 (101.0) | 539 (95.4) | 5,848 (99.6) |
| 2017 | 7,841 (104.7) | 1,331 (113.1) | 892 (99.7) | 2,968 (105.3) | 472 (97.7) | 6,103 (106.2) |
| 2018 | 8,268 (105.4) | 1,443 (108.4) | 948 (106.3) | 3,129 (105.4) | 489 (103.6) | 6,409 (105.0) |
| 2019 | 8,026 (97.1) | 1,352 (93.7) | 885 (93.4) | 2,968 (94.9) | 450 (92.0) | 6,235 (97.3) |
| 2020 | 6,010 (74.9) | 1,217 (90.0) | 712 (80.5) | 2,356 (79.4) | 461 (102.4) | 5,245 (84.1) |
| 2021 | 7,940 (132.1) | 1,096 (90.1) | 851 (119.5) | 2,616 (111.0) | 520 (112.8) | 6,068 (115.7) |
| 2022 | 8,361 (105.3) | 1,129 (103.0) | 961 (112.9) | 2,783 (106.4) | 570 (109.7) | 6,477 (106.8) |
| 2023 | 8,553 (102.3) | 1,054 (93.3) | 995 (103.6) | 2,994 (107.6) | 649 (113.9) | 7,179 (110.8) |
| 2024 | 8,068 (94.3) | 973 (92.3) | 1,065 (107.0) | 2,866 (95.7) | 729 (112.3) | 6,938 (96.6) |
| 2025 | 8,214 (101.8) | 895 (91.9) | 1,177 (110.5) | 2,966 (103.5) | 821 (112.6) | 7,132 (102.8) |

注：鋳鉄鋳物には、鋳鉄管、可鍛鋳鉄を含む。

表 2. 鉄鋳物の生産量推移

単位：千トン、()：対前年比%

| 年 | 合 計 | 鋳鉄鋳物 | 鋳鉄管 | 可鍛鋳鉄 | 鋳 鋼 |
|------|---------------|---------------|-------------|------------|-------------|
| 2000 | 4,941 (104.2) | 3,998 (106.2) | 580 (91.3) | 98 (96.4) | 264 (102.6) |
| 2005 | 5,036 (103.0) | 4,299 (104.8) | 403 (88.9) | 58 (74.8) | 277 (107.1) |
| 2010 | 4,030 (123.9) | 3,469 (132.4) | 316 (79.1) | 39 (104.9) | 207 (104.3) |
| 2015 | 3,929 (96.8) | 3,331 (95.7) | 398 (110.6) | 43 (97.6) | 157 (91.1) |
| 2017 | 3,887 (104.0) | 3,434 (106.1) | 249 (80.3) | 42 (102.4) | 162 (107.9) |
| 2018 | 3,967 (102.1) | 3,511 (102.2) | 249 (100.0) | 40 (95.0) | 168 (103.6) |
| 2019 | 3,745 (94.4) | 3,323 (94.6) | 231 (92.7) | 38 (94.9) | 153 (91.2) |
| 2020 | 3,153 (84.2) | 2,768 (83.3) | 234 (101.3) | 29 (77.6) | 122 (79.7) |
| 2021 | 3,557 (112.8) | 3,170 (114.5) | 224 (95.7) | 30 (101.3) | 133 (109.0) |
| 2022 | 3,486 (98.0) | 3,115 (98.3) | 205 (91.7) | 29 (98.4) | 137 (103.0) |
| 2023 | 3,433 (98.5) | 3,080 (98.9) | 193 (94.0) | 29 (98.4) | 131 (95.7) |
| 2024 | 3,179 (92.6) | 2,866 (93.0) | 171 (88.8) | 27 (93.8) | 115 (88.1) |
| 2025 | 3,222 (101.4) | 2,909 (101.5) | 182 (106.4) | 25 (92.6) | 106 (92.2) |

表 3. 精密鋳造品・非鉄金属鋳物の生産量推移

単位：トン、()：対前年比%

| 年 | 精密鋳造品 | 銅合金 | アルミ鋳物 | ダイカスト |
|------|---------------|----------------|-----------------|-------------------|
| 2000 | 7,345 (111.4) | 87,093 (105.3) | 412,824 (104.6) | 833,223 (109.4) |
| 2005 | 7,380 (97.9) | 97,794 (92.7) | 412,483 (103.7) | 1,064,866 (108.1) |
| 2010 | 5,899 (136.0) | 79,293 (105.3) | 386,812 (132.5) | 980,850 (129.3) |
| 2015 | 5,824 (86.9) | 77,884 (101.0) | 418,556 (100.3) | 977,481 (97.6) |
| 2017 | 5,353 (98.4) | 75,387 (97.3) | 441,837 (104.3) | 1,043,558 (106.4) |
| 2018 | 5,053 (94.4) | 74,559 (98.9) | 454,069 (102.8) | 1,074,522 (103.0) |
| 2019 | 4,172 (82.6) | 70,963 (95.2) | 437,339 (96.3) | 1,022,064 (95.1) |
| 2020 | 3,859 (92.5) | 57,019 (80.4) | 343,652 (78.6) | 839,132 (82.1) |
| 2021 | 4,713 (122.1) | 59,585 (104.5) | 374,042 (108.8) | 925,287 (110.3) |
| 2022 | 4,439 (94.2) | 58,870 (98.8) | 363,861 (97.3) | 894,912 (96.7) |
| 2023 | 4,210 (94.8) | 57,440 (97.6) | 390,859 (107.4) | 961,949 (107.5) |
| 2024 | 4,073 (96.7) | 57,423 (99.9) | 363,727 (93.1) | 906,975 (94.3) |
| 2025 | 4,295 (105.5) | 59,342 (103.3) | 366,143 (100.7) | 900,575 (99.3) |

II. 協会活動の概要

2025年度は、前年度に引き続き「鑄造産業ビジョン2017（2017年9月）」が目指すあるべき姿を実現するための6つのアクションプランに基づき、前年度以前と同様に、①技術開発による商品開発力の向上、②経営基盤強化と健全な取引による事業発展、③同業／異業／地域との積極的な連携による競争力強化、④海外との連携、⑤人材育成の充実、⑥環境・エネルギー対策の強化に基づく事業計画に従って協会事業活動を推進した。

2025年度の主な事業活動は次のとおり。

1. 2025年7月1日に創立20周年を迎え、これを記念し2026年1月29日に記念式典・祝賀会及び「IMONO MIRAI フォーラム（講演会）」を開催した。同日は500名を超える参加があり、記念式典の表彰式では多年にわたる功績を称え、経済産業大臣表彰に2名、経済産業省製造産業局長表彰に6名が受賞された。
2. 世界的に高まる温室効果ガス削減への動きから、我が国においてもカーボンニュートラルに向けた温室効果ガスの削減目標が政府より示されている。鑄造業界においてもこの政府目標を達成するため、2021年度に設置したカーボンニュートラル特別委員会及びWGを開催し、温室効果ガス（主にCO₂）削減の講ずべき対策を検討した。
3. 令和8年度予算・税制要望等として政府、鑄物産業振興議員連盟（鑄物議連）等に対して、①取引慣行適正化の推進、②安価かつ安定的なエネルギー供給の確保、③外国人材受入れ制度の柔軟な運用、④鉄スクラップ、銅、アルミ等の原材料・副資材の安定供給、⑤温室効果ガス削減に向けた支援策の拡充、⑥大学等における鑄造分野の専門課程や小学校での工場見学等の拡充などを要望した。
4. 素形材産業適正取引に関する自主行動計画（11業界団体共同策定）を2026年3月に改定するとともに、同自主行動計画に基づく取引適正化への取組みに関するフォローアップ調査を行い、政府へ報告した。
また、2026年1月に施行した「中小受託取引適正化法（取適法）」、「中小受託企業振興法（振興法）」や、それに伴い見直しされた「素形材産業取引ガイドライン」等を周知徹底し、取適法適用外の取引を含めたサプライチェーン全体での取引適正化を推進した。
エネルギー価格並びに物価高騰、労務費や運送費の上昇、設備維持管理費の負担増に対して、2026年1月に会長名文書「健全な取引ならびに安定供給に向けたお願い」を発行し、価格交渉申込シート「鑄造協会標準モデル」ならびに取組事例と併せて提供し、会員企業の取引慣行適正化を支援した。
5. 経営部会市場調査委員会では、四半期毎に実施している景況調査において、原材料、副資材、エネルギー価格、労務費、修繕費、運送費上昇分の転嫁状況などを収集・確認し、会員企業へのフィードバック並びに各種会合等において調査結果を報告するとともに、政府や鑄物議連等の要望に反映した。

6. 環境分野では、引き続き、環境・エネルギー対策となる CO₂ 削減に関するアンケートを実施するとともに、カーボンニュートラル特別委員会および鑄造ジャーナルにおいて調査結果を公表した。
7. 標準化では、ISO 規格制定の 7 種類の鑄鉄品の内、JIS 未制定の「耐摩耗鑄鉄品」の改正原案を完成させ日本規格協会に提出した。さらに、ISO/TC25 国内審議会の活動として第 36 回 ISO/TC25 全体会議に参加し、耐摩耗鑄鉄品の ISO 規格改訂、「くさび強度試験」の ISO 規格制定に対する日本の立場の表明、鑄鉄品の ISO 規格の改正動向の共有等を図った。
8. 国際交流として、9 月に世界精密大会 (WCIC) をホスト国として神戸にて、前回京都大会 (2012 年) を上回る参加者を得て開催した。
9. 将来の鑄物工場の経営者や工場長の育成を目指す人材育成事業「鑄造カレッジ」は、共通 Web 講義と対面講義を組み合わせ、関東、東海、中国四国地区にて開催した。鑄鉄コース 67 名、鑄鋼コース 11 名、合計 78 名が受講し、修了した。
10. 若手社員を対象とした新人教育研修プログラム「鑄造入門講座 (鑄鉄・アルミニウム鑄物コース)」は、年 2 回開催した。前期は 4 月～9 月にかけて対面とオンラインの両形式を取り入れ現地研修及び安全体感講習等の実習を加えた計 35 コマのカリキュラムで、49 名でスタートし全員が修了した。後期は 11 月～2026 年 2 月にかけて ZOOM を活用したオンラインのみの形式で現地研修等の実習を除いた計 24 コマのカリキュラムで 46 名が受講し、45 名が修了した。2025 年度までの修了生は累計 930 名となった。
11. 課題解決型専門コースである「鑄造カレッジ上級コース (鑄鉄材料・砂型コース)」は 2026 年度以降に開講を見送った。
12. 専門研修としては、現場技術者及び作業者を対象として、鑄造の基礎技術に関する講座「鑄造技術研修会」を、オンライン講義にて実施。「溶解・築炉」(10 月)、「方案・欠陥」(11 月)、「砂・造型法 (生型)」(2 月)、「品質保証」(2 月) の延べ 4 日開催し、142 名が受講した。また、軽合金鑄造技術研修会を 11 月に実施し 13 名が受講した。
13. 地方組織の活性化を推進するため、東海支部、北陸支部、中国四国支部の 3 支部活動を支援して地域活動を展開した。併せて、島根県鑄造関連産業振興協議会との交流を実施した。
14. 大会事業としては、5 月に社員総会に併せて春季大会 (理事会・協会役員会、協会賞表彰式、鑄造技士認定証授与式、懇親会)、10 月に北海道で秋季大会 (理事会・協会役員会、懇親会、講演会、懇親ゴルフ大会) を開催した。また、IMONO

MIRAI フォーラムを 9 月に大阪（講演会・懇親会・工場見学会）と 1 月に東京（講演会・懇親会）に於いて開催した。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会 1 回、理事会、正副会長会 5 回、協会役員会 4 回、監事会 1 回をそれぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 社員総会開催日程

第 13 回社員総会 2025 年 5 月 21 日（水）機械振興会館

(2) 理事会（①以外は協会役員会と合同開催）

- ① 第 60 回 2025 年 4 月 25 日（金）機械振興会館
- ② 第 61 回 2025 年 5 月 21 日（水）機械振興会館
- ③ 第 62 回 2025 年 10 月 2 日（木）京王プラザホテル札幌
- ④ 第 63 回 2026 年 1 月 29 日（木）東京プリンスホテル
- ⑤ 第 64 回 2026 年 3 月 24 日（火）機械振興会館

(3) 正副会長会

- ① 第 103 回 2025 年 4 月 25 日（金）機械振興会館
- ② 第 104 回 2025 年 7 月 14 日（月）機械振興会館
- ③ 第 105 回 2025 年 9 月 17 日（水）機械振興会館
- ④ 第 106 回 2025 年 12 月 12 日（金）機械振興会館
- ⑤ 第 107 回 2026 年 2 月 27 日（金）沖縄鋳鉄工業(株) 会議室

(4) 協会役員会（理事会と合同開催）

- ① 第 46 回 2025 年 5 月 21 日（水）機械振興会館
- ② 第 47 回 2025 年 10 月 2 日（木）京王プラザホテル札幌
- ③ 第 48 回 2026 年 1 月 29 日（木）東京プリンスホテル
- ④ 第 49 回 2026 年 3 月 24 日（火）機械振興会館

(5) 監事会

2025 年 4 月 23 日（水）機械振興会館にて監事会を開催し、2024（令和 6）年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行った。

2. 部会に関する事項

(1) 総務部会

佐藤孝造総務部会長の下に、総務部会を 4 回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営（他の部会に属するものを除く）に関する事項について審議した。

- ① 第 74 回 2025 年 6 月 25 日（水）機械振興会館
- ② 第 75 回 2025 年 8 月 28 日（木）機械振興会館
- ③ 第 76 回 2025 年 12 月 2 日（火）熊本
- ④ 第 77 回 2026 年 2 月 20 日（金）機械振興会館

(2) 経営部会

北川宏経営部会長の下に、経営部会を4回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討及び会員の企業経営に役立つ情報の提供ならびに行事等の企画・立案について審議した。今年度は、以下の3項目を重点項目として活動を実施した。

- 【1】取引適正化（労務費に加え修繕費、運送費の価格転嫁）の推進と取組事例の共有、ならびに鋳物の付加価値向上へ向けての議論を進める。
- 【2】育成就労制度の情報共有ならびに外国人材の育成・定着と、「外国人の労務費」の適正利益確保。
- 【3】人材確保・定着のための魅力向上（職場環境改善、働き方改革等）と事例共有。
 - ① 第78回 2025年6月16日（月）機械振興会館（ハイブリッド）
 - ② 第79回 2025年9月18日（木）機械振興会館（ハイブリッド）
 - ③ 第80回 2025年12月11日（木）機械振興会館
 - ④ 第81回 2026年2月26日（木）機械振興会館（ハイブリッド）

また、業界の動向を把握し、統計データ、最近の鋳造業界動向、原材料副資材コスト動向の会員への情報提供を行った。

(3) 技術・環境部会

石田吉孝技術・環境部会長の下に、技術部会を4回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討及び委員会運営等に関する事項について審議した。また、海外の最新技術の視察のため、2026年2月にドイツ工場見学会を開催し、技術部会員及び各専門委員会委員の23名が参加した。

- ① 第1回 2025年8月7日（木）機械振興会館（ハイブリッド）
- ② 第2回 2025年10月16日（木）機械振興会館（ハイブリッド）
- ③ 第3回 2025年12月17日（水）Web
- ④ 海外視察ツアー 2026年2月9日（月）～2月13日（金）ドイツ国内7社
- ⑤ 第4回 2026年2月25日（水）機械振興会館（ハイブリッド）

(4) 国際部会

岡村富雄国際部会長の下に、国際部会を4回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議した。

- ① 第1回 2025年5月29日（木）機械振興会館
- ② 第2回 2025年9月25日（木）株カスタム（福山）
- ③ 第3回 2025年11月19日（水）機械振興会館
- ④ 第4回 2026年1月30日（金）機械振興会館

(5) 機材部会

渡辺兼三機材部会長の下に、機材部会を設備・資材委員会と合同で6回開催し、機材部会としての活動方針・計画等に関する事項について審議した。

- ① 第1回 2025年6月5日（木）機械振興会館
- ② 第2回 2025年10月15日（水）静岡
- ③ 第3回 2025年12月4日（木）機械振興会館
- ④ 第4回 2026年2月4日（水）機械振興会館

IV. カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

世界的に高まる温室効果ガス削減への動きから、我が国においてもカーボンニュートラルに向けた温室効果ガスの削減目標が政府より示されている。鑄造業界においてもこの政府目標を達成するため、温室効果ガス（主に CO₂）削減に向けて講ずべき対策を検討する「カーボンニュートラル特別委員会」を 2021 年度に発足し、委員会とともに調査・セミナーWG、削減計画 WG、モデル工場実態調査 WG の 3 つの WG を設置し活動を実施。調査・セミナーWG では、エネルギー使用量及び CO₂ 排出量実態調査を実施、削減計画 WG では、施策項目についての評価リスト「バージョン 2.0」2025 年 4 月に協会ホームページ（会員専用ページ）に公開し、委員会ならびに外部の鑄造関係の技術講習会（鑄造工学会）（2025 年 5 月）でも紹介した。また、モデル工場実態調査 WG では、2024 年度の実施工場（ヒロセ合金）へのフォローアップと秋季大会での成果報告の支援、さらに、2026 年度実施工場として株TAC を選定し、2026 年度からのスムーズなキックオフに向けた準備を開始した。

（1）カーボンニュートラル特別委員会（委員長 岡村 富雄）

- ① 第 17 回 2025 年 7 月 8 日（火）機械振興会館（ハイブリッド）
- ② 第 18 回 2025 年 11 月 18 日（火）機械振興会館（ハイブリッド）
- ③ 第 19 回 2026 年 3 月 2 日（月）機械振興会館（ハイブリッド）

（2）実態調査・セミナーWG（エネルギー削減委員会と合同開催）

- ① 第 1 回 2025 年 6 月 24 日（火） Web
- ② 第 2 回 2025 年 11 月 13 日（木）～17 日（月） 書面
- ③ 第 3 回 2025 年 12 月 23 日（火） Web
- ④ 第 4 回 2026 年 2 月 24 日（火）～26 日（木） 書面
- ⑤ 第 5 回 2026 年 3 月 23 日（月） Web

（3）削減計画 WG

- ① 第 1 回 2025 年 7 月 8 日（火）機械振興会館（ハイブリッド）
- ② 第 2 回 2025 年 11 月 13 日（木）～17 日（月） 書面
- ③ 第 3 回 2025 年 12 月 16 日（火）機械振興会館（ハイブリッド）
- ④ 第 4 回 2026 年 2 月 24 日（火）～26 日（木） 書面

（4）モデル工場実態調査 WG

- ① 第 1 回 2025 年 4 月 17 日（木）ヒロセ合金株（愛知）（ハイブリッド）
- ② 第 2 回 2025 年 11 月 13 日（木）～17 日（月） 書面
- ③ 第 3 回 2026 年 2 月 2 日（月）株TAC（ハイブリッド）
- ④ 第 4 回 2026 年 2 月 24 日（火）～26 日（木） 書面

V. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会・懇親会等の開催に関する事項

（1）創立 20 周年記念式典・祝賀会

2026 年 1 月 29 日（木）東京プリンスホテルに於いて、例年の新年賀詞交歓会と兼ね、IMONO MIRAI フォーラムと共同で開催した。

【記念式典】

2026年1月29日（木）東京プリンスホテル 鳳凰の間（西） 参加者数 505名
 ・来賓参加：経済産業省 製造産業局長 伊吹英明 他

【祝賀会】

2026年1月29日（木）東京プリンスホテル 鳳凰の間（東） 参加者数 540名
 (2) 2025年度春季大会の開催

2025年5月21日（水）春季大会の一連の行事として、機械振興会館ならびに東京プリンスホテルに於いて、社員総会、理事会・協会役員会、協会賞表彰式、鑄造技士認定証授与式、懇親会を開催した。

・懇親会（鑄造技士認定授与式懇親会と合同開催）

東京プリンスホテル サンフラワーホール 参加者数 200名

(3) 2025年度秋季大会の開催

2025年10月2日（木）～4日（土）於 北海道

【懇親会】

2025年10月2日（木）京王プラザホテル札幌 プラザホール 参加者数 132名

【講演会】

2025年10月3日（金）京王プラザホテル札幌 雅の間 参加者数 131名

| 演 題 | 講 演 者 他 |
|--|---|
| (1) 創立 20 周年記念講演 | |
| ①高等教育機関で輩出される人材の確保 | 函館工業高等専門学校 清水一道 |
| ②素形材産業ビジョン | 経済産業省製造産業局 大今宏史 |
| (2) 経営部会企画 | |
| ①AI の基本と鑄造企業での活用事例 ・ AI とは何か～会議議事録の作成（Copilot） ・ 発表資料の作成（ChatGPT） ・ ナレッジデータベースとしての活（Gemini） | DX 推進委員会 アサゴエ工業(株) 藤原宏嗣 (株)木村鑄造所 沖寿之 (株)今泉鑄造鉄工所 今泉豪樹 |
| ②「狩猟業界の DX 化で北海道の野生資源を価値に変わる」 | (株)Fant 高野沙月（講演者） (株)進藤鑄造鉄工所 進藤寛也 （ファシリテーター） |
| (3) カーボンニュートラル（CN）特集 | |
| ①技術賞受賞「バイオ成型炭の開発」 | アイシン高丘(株) 八幡一義 |
| ②モデル工場実態調査事業成果報告 | ヒロセ合金(株) 近藤哲司 |

【親睦ゴルフ大会】

2025年10月4日（土）北海道 御前水ゴルフ倶楽部 参加者数 24名

(4) IMONO MIRAI フォーラム

若手経営者委員会が企画・運営する全国大会を夏季・冬季の2回開催した。

①夏季フォーラム（大阪）

【講演会】2025年9月4日（木）難波御堂筋ホール 参加者数 245名

| 演 題 | 講 演 者 |
|---------------------|----------------------------------|
| 「素形材産業ビジョンの紹介」 | 経済産業省 製造産業局 素形材産業室長 大今宏史 |
| 「B to B のマーケティング戦略」 | ストラテジー&タクティクス(株) 代表取締役社長 佐藤義典 |

【工場見学会】参加者数 122名

A コース：光洋鋳造(株)、(株)カイバラ

B コース：五位堂工業(株)、朝日鋳工(株)

C コース：(株)光明製作所、(株)ヤナギモト

D コース：太洋マシナリー(株)、(株)クボタ恩加島事業センター

E コース：(株)南野産業、(株)ナニワ炉機研究所

②冬季フォーラム（20周年記念式典・祝賀会と共同開催）

【講演会】2026年1月29日（木）東京プリンスホテル 鳳凰の間（西）

参加者数 437名

| 演 題 | 講 演 者 |
|--|--|
| 「パネルディスカッション」 ・我々が目指す未来像について ・必要な戦略とは？ | ファシリテーター 太洋マシナリー(株) 代表取締役社長 渡辺兼三 パネラー (株)武村鋳造所 代表取締役社長 武村浩道 (株)シオノ鋳工 代表取締役 塩野浩士 前橋橋本合金(株) 代表取締役社長 橋本浩伸 |
| 事例紹介① 『成長戦略としての積極的 M&A 事例』 | ハンダ技研工業(株) 代表取締役社長 吉岡亨浩 |
| 事例紹介② 『承継から挑戦へ M&A・PMI で未来を拓く』 | 新栄ホールディングス(株) 代表取締役社長 中村新一 |
| 事例紹介③ 『M&A の先に』 | (株)ミヤタ 代表取締役社長 松尾精三 |

(5) 非鉄情報交換会

春季は、機材・資材メーカー各社の協力のもと、「非鉄分野での省エネ・省人化等への取り組み・技術等の事例紹介」による情報交換会を行った。秋季は、非鉄の若手会員および鑄造技士(鑄造カレッジ非鉄コース修了生)の方を中心とした工場見学会及び情報交換会を実施。

①春季非鉄情報交換会 (第21回) 参加者数 47名

2025年6月13日(金) 情報交換会 ビジョンセンターグランデ東京浜松町

| 演 題 | 講 演 者 |
|---|-------------------------------------|
| 「非鉄分野での省エネ・省人化等への取り組み (製品ご紹介)」 | 日本ルツボ(株) 戦略企画部 部長 羽留稔晃 |
| 「非鉄鑄造工場向け砂処理設備のご紹介」 | 太洋マシナリー(株) 東部営業部 主任 佐藤直樹 |
| 「材料予熱から溶解炉までの自動投入の実績 (非鉄材料の予熱・省エネ提案)」 | (株)ナニワ炉機研究所 代表取締役常務 村田康博 |
| 「Such a Little Thing ?/ メッシュ フィルターなど副資材からの少人化」 | ASK ケミカルズジャパン(株) 代表取締役社長 南波洋 |
| 「非鉄金属向け方案切断バリ取り 仕上げ装置バリンダーのご紹介」 | (株)コヤマ 営業部省力化機械グループ係長 玉井隆之 |
| 「無機バインダーを用いた 発泡中子造型プロセスと中子造型機の開発」 | 新東工業(株) 鑄造事業部 開発 G 主任担当員 青木知裕 |
| 「環境改善、省エネに貢献できる 無機コーテッドサンドのご紹介」 | 花王クエーカー(株) 開発部 部長 加藤雅之 |
| 「CN に向けての新型造型機と 油圧レス自動造型ラインの開発」 | KANAMORI SYSTEM Inc. 常務取締役 金森さやか |

②秋季非鉄情報交換会 (第22回) 参加者数 36名

2025年10月17日(金) 工場見学・情報交換会

工場見学会：(株)コヤマ 須坂工場

情報交換会：メトロポリタン長野 2F 中宴会場「梓」

(6) 安全衛生対策セミナー ※現在募集中

労働災害の減少を図るため、「リスクアセスメント」をテーマにしたオンラインセミナーを(一社)日本鑄鍛鋼会、(一社)日本ダイカスト協会及び(一社)日本鍛造協会と合同で開催した。

参加者数 19名 (4団体合計 37名)

日 時：2026年3月18日(水)

場 所：機械振興会館

プログラム

| |
|---|
| 1. 熱中症対策アンケート報告 |
| 2. 講演「気づきを与える安全衛生活動」～安全なくして未来なし！危険に気づく人づくり～ 講師：大槻 悦郎 |
| 3. 熱中症対策に関する各社事例 |

(7) 5 団体共催セミナー

(一社) 日本ダイカスト協会、(一社) 日本鍛造協会、(一社) 日本鋳鍛鋼会及び高度ポリテクセンター*の 5 団体合同で、各協会の会員に対して、以下に示す基礎的な研修セミナーを開催し、延べ 42 名の参加があった。

① 工業・製品図面読み方のポイント ※オンライン

2026 年 1 月 26 日 (月)、30 日 (金)、2 月 2 日 (月) 参加者数 38 名

② 生産設備を故障させないための機械保全

2026 年 2 月 16 日 (月)～17 日 (火) 参加者数 6 名

* (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度職業能力開発促進センター

2. 国際競争力を発揮できる環境の整備に関する事項

(1) 鋳物産業振興議員連盟への要望

2025 年 6 月 17 日に開催された自由民主党「第 25 回鋳物産業振興議員連盟総会 (会長：麻生太郎衆議院議員)」に併せて情報交換会を実施し、議員連盟及び経済産業省他官公庁に向けて、下記の施策・税制要望ならびに情報交換を行った。

【重点項目】

1. 取引慣行適正化の推進

2. 安価かつ安定的なエネルギー供給の確保

① 再生可能エネルギー発電促進賦課金の抑制、並びに減免制度の入口要件の見直し

② 原子力発電の安全性を確保した早期再稼働及び新設を含めた安価で安定的なエネルギー供給

③ 電気、ガス等のエネルギー価格高騰に対する支援

3. 外国人材受入れ制度の柔軟な運用

【施策関連要望】

1. 鉄スクラップ、銅、アルミ等の原材料・副資材の安定供給

2. 温室効果ガス削減に向けた支援策の拡充

3. 大学等における鋳造分野の専門課程や小学校での工場見学等の拡充

【予算・税制要望】

1. ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金等の生産性向上等のための補助金制度の存続・拡充
2. 中小企業省力化投資補助事業の運用の簡素化
3. 電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の拡充等
4. 中小企業に配慮した人材育成等への助成の復活・拡充
5. 中小企業・小規模事業者の設備投資を支援する税制措置の延長
6. 地球温暖化対策税の用途拡大や安易な課税拡大の反対

(2) 経営基盤強化に係る政策制度への対応

2025年11月13日に開催された自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」において下記の令和8年度の予算・税制要望を行った。

【重点項目】

1. 取引慣行適正化の推進
2. 安価かつ安定的なエネルギー供給の確保
 - ① 再生可能エネルギー発電促進賦課金の抑制、並びに減免制度の入口要件の見直し
 - ② 原子力発電の安全性を確保した早期再稼働及び新設を含めた安価で安定的なエネルギー供給
 - ③ 電気、ガス等のエネルギー価格高騰に対する支援
3. 外国人材受入れ制度の柔軟な運用

【施策関連要望】

1. 鉄スクラップ、銅、アルミ等の原材料・副資材の安定供給
2. 温室効果ガス削減に向けた支援策の拡充
3. 大学等における鑄造分野の専門課程や小学校での工場見学等の拡充

【予算・税制要望】

1. ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金等の生産性向上等のための補助金制度の存続・拡充
2. 中小企業省力化投資補助事業の運用の簡素化
3. 電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の拡充等
4. 中小企業に配慮した人材育成等への助成の復活・拡充
5. 中小企業・小規模事業者の設備投資を支援する税制措置の延長
6. 地球温暖化対策税の用途拡大や安易な課税拡大の反対

3. 鑄造業の経営改善・振興対策、その他に関する事項

(1) 取引条件適正化の推進

- ① 素形材産業取引適正化委員会（藤原会長が委員）

素形材産業適正取引適正化委員会を2025年10月20日ハイブリッドで開催し、素形材産業取引ガイドライン最終改訂版が11月に公表された。

- ② 自動車取引適正化研究会（藤原会長が委員）
自動車取引適正化研究会を 2025 年 11 月 10 日ハイブリッドで開催し、自動車産業適正取引ガイドライン最終改訂版が 1 月に公表された。
- ③ 価格交渉促進月間（3 月、9 月）等
価格交渉促進月間ならびに月間終了後のアンケートについて会員企業に周知徹底し、取引慣行適正化を推進した。
- ④ 公正取引委員会の労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針「価格交渉の申込様式（例）」を参考に価格交渉申込シート「（一社）日本鑄造協会標準モデル」を作成し、会員企業の取組事例をと併せて会員企業に提供し取引慣行適正化を支援した。
- ⑤ 自主行動計画フォローアップ調査（経産省）
自主行動計画フォローアップ調査を会員鑄造企業（発注側）に対して実施し、調査結果を経産省ならびに各種会合で報告・周知した。
- ⑥ 日本自動車部品工業会と素形材産業 8 団体との懇談会
2025 年 7 月 25 日 岡村副会長が参加し、自動車部品工業会より取引適正化等に係る取組み、素形材産業各団体より取引適正化・カーボンニュートラル等に関する取組について説明し、意見交換を行った。
- ⑦ 自動車サプライチェーン取引適正化会議（鈴木副会長・専務理事が委員）
自動車業界の競争力を高めるため、2026 年 2 月 5 日に自動車業界と関係業界のサプライチェーン全体で、課題の見える化と取引の適正化に向けた意見交換を実施した。また、会員企業の自動車産業における取引の実態把握のアンケートを実施し、取り纏めの上、本会議において現状を報告し適正化の推進を要望した。
- ⑧ 「会長名お願い文書」発行
エネルギー価格並びに物価高騰、労務費上昇などに対し、2026 年 1 月、会長名の「健全な取引ならびに安定供給に向けたお願い」を発行し、会員企業の取引慣行適正化を支援した。

(2) DX 推進委員会（委員長 藤原 宏嗣）

会員企業のスマートファウンドリー化を推進すべく 2018 年度に発足した「IoT 推進特別委員会」の活動を引き継ぎ、2024 年度から「DX 推進委員会」として新たに活動を開始した。委員による協議の結果、所期の目的を達成し一定の成果を収めることが出来たため、活動を総括し 2025 年度をもって当委員会を終了することとなった。

① 委員会

- 第 6 回 2025 年 4 月 22 日（火）機械振興会館
- 第 7 回 2025 年 6 月 23 日（月）Web
- 第 8 回 2025 年 7 月 29 日（火）Web
- 第 9 回 2026 年 1 月 30 日（金）機械振興会館

- ② セミナー、鑄造 IoTTLT
2025年7月15日(火) DX セミナー
- ③ 工場見学会
2025年10月28日(火) 鍋屋バイテック(株) (岐阜)

4. 同業との連携に関する事項

(1) 量産鋳鉄鑄物委員会 (委員長 竹内 英貴)

量産鋳鉄鑄物企業による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に計4回開催した。

- ① 第69回 2025年6月6日(金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ② 第70回 2025年10月16日(木) ビズスペース姫路
10月17日(金) 虹技(株) 工場見学
- ③ 第71回 2025年12月19日(金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ④ 第72回 2026年3月18日(水) TKP 宇都宮カンファレンスセンター
3月19日(木) (株)真岡製作所 工場見学

(2) 非量産鋳鉄鑄物委員会 (委員長 若林 誠)

非量産鋳鉄鑄物企業による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に計4回開催した。

- ① 第54回 2025年6月19日(木) TKP ガーデンシティアパホテル
札幌大通駅前 委員会
6月20日(金) 佐藤鑄工(株)、札幌高級鑄物(株) 工場見学
- ② 第55回 2025年9月26日(金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ③ 第56回 2025年11月7日(金) オーエム金属工業(株)、
ヤンマーキャステクノ(株) 見学
- ④ 第57回 2026年2月27日(金) 機械振興会館 (ハイブリッド)

(3) 精密鑄造経営委員会 (委員長 野崎 修一)

- ① 第78回 2025年6月27日(金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ② 第79回 2025年10月15日(水) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ③ 第80回 2025年12月22日(月) 機械振興会館
- ④ 第81回 2026年2月27日(金) 機械振興会館 (ハイブリッド)

(4) 非鉄委員会 (委員長 井上 晃)

- ① 第1回 2025年7月1日(火) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ② 第2回 2025年12月17日(水) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ③ 第3回 2026年3月18日(水) 機械振興会館 (ハイブリッド)

(5) 軽合金委員会 (委員長 増田 朋和)

- ① 第1回 2025年7月9日(水) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ② 第2回 2025年12月9日(火) (株)能作、若鶴酒造(株) 見学・委員会
- ③ 第3回 2026年2月18日(水) 機械振興会館 (ハイブリッド)

5. 調査研究に関する事項

市場調査委員会（委員長 北川 宏）を開催し、景況調査結果による分析、会員企業の困りごとの把握。また、原材料・副資材、エネルギー価格、労務費、修繕費、運送費の転嫁状況など等の状況ならびに対応について審議した。

- ① 第44回 2025年 6月 16日（月）機械振興会館
- ② 第45回 2025年 9月 18日（木）機械振興会館
- ③ 第46回 2025年 12月 11日（木）機械振興会館
- ④ 第47回 2026年 2月 26日（木）機械振興会館

6. 鑄造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

令和8年度予算・税制等要望として、6月に自由民主党の鑄物産業振興議員連盟、11月に自由民主党の「予算・税制等に関する政策懇談会」に対して鑄造業界の要望を行った。

7. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会（委員長 島村 大）

組合代表者会を事務局長会と合同で以下のとおり開催した。

- ① 第70回 2025年 7月 15日（火）機械振興会館
- ② 第71回 2025年 9月 24日（水）機械振興会館
- ③ 第72回 2025年 12月 10日（水）機械振興会館
- ④ 第73回 2026年 3月 12日（木）TKP ガーデンシティ鹿児島中央

(2) 組合事務局長会（委員長 永井 克昌）

上記第70～73回の組合代表者会と合同で組合事務局長会第83～86回を開催し、単独開催を以下のとおり実施した。

- 第82回 2025年 6月 20日（金）～21日（土）

事務局長会単独 榑村瀬鉄工所

(3) 若手経営者委員会（委員長 永森 久之）

若手経営者委員会を5回開催し、若手経営者全国大会（夏・冬）の企画・運営他に関し審議した。

- ① 第73回 2025年 6月 4日（水）機械振興会館（ハイブリッド）
- ② 第74回 2025年 9月 24日（水）機械振興会館（ハイブリッド）
- ③ 第75回 2025年 12月 16日（火）伊藤鉄工(株) 見学・委員会
- ④ 第76回 2026年 3月 4日（水）(株)大田鑄造所 見学・委員会

(4) 組合だよりの発行

組合員を対象に各組合の業況、組合代表者会の議事録・報告内容等を掲載した「組合だより」を毎月（計12回）発行した。

8. 技術開発に関する事項

(1) キュポラ操業研究委員会（委員長 田中 裕一）

テーマ：カーボンニュートラル（CN）及びバイオ原料に関する意見交換

*)外部組織キュボラ共創 WG と連携

- ① 第1回 2025年 4月 8日（火） マツダ(株) 東京本社(ハイブリッド)
- ② 第2回 2025年 5月 13日（火） Web
- ③ 第3回 2025年 6月 3日（火） Web
- ④ 第4回 2025年 7月 1日（火） Web
- ⑤ 第5回 2025年 8月 5日（火） Web
- ⑥ 第6回 2025年 9月 2日（火） Web
- ⑦ 第7回 2025年 10月 10日（金） 東亜工業(株) (ハイブリッド・工場見学会含)
- ⑧ 第8回 2025年 11月 4日（火） Web
- ⑨ 第9回 2025年 12月 2日（火） Web
- ⑩ 第10回 2026年 1月 6日（火） Web
- ⑪ 第11回 2026年 2月 3日（火） Web
- ⑫ 第12回 2026年 3月 3日（火） 機械振興会館（ハイブリッド）

(2) 電気炉操業研究委員会（委員長 菅野 利猛）

テーマ：委員アンケートに基づき、溶湯に関する話題（溶湯処理、熱分析、溶解法）、品質管理、新JISなどの議題を討議

- ① 第1回 2025年 6月 6日（金） 機械振興会館（ハイブリッド）
- ② 第2回 2025年 9月 26日（金） 機械振興会館（ハイブリッド）
- ③ 第3回 2025年 12月 18日（木） 富士電機(株)・鈴鹿工場（工場見学会）
2025年 12月 19日（金） 同上（ハイブリッド）
- ④ 第4回 2026年 3月 13日（金） 機械振興会館（ハイブリッド）

(3) 鋳型技術委員会（委員長 山本 賢）

テーマ：鋳物砂、造型システムに関する最新情報の提供及び討議

- ① 第1回 2025年 6月 20日（金） 機械振興会館（ハイブリッド）
 - ② 第2回 2025年 10月 1日（水） 札幌高級鋳物（工場見学）
2025年 10月 2日（木） 道総研・工業試験場（工場見学）、
委員会（ハイブリッド）
 - ③ 第3回 2025年 12月 11日（木） 機械振興会館（ハイブリッド）
 - ④ 第4回 2026年 2月 18日（水） 機械振興会館（ハイブリッド）
- ・小Grでの活動：JACT試験法改正のため、打合せを4回開催。
- ① 第1回 2025年 6月 20日（金） Web
 - ② 第2回 2025年 11月 19日（水）～12月9日（火） 書面
 - ③ 第3回 2025年 12月 10日（水） Web
 - ④ 第4回 2026年 2月 18日（水） Web

(4) 精密鋳造技術委員会（委員長 登 勇氣）

テーマ：精密鋳造用3Dワックス模型の適用検討、海外技術情報の交換、他材料強度に関する調査WGを今年から開始した。

（公社）日本鋳造工学会精密鋳造研究部会との共同開催で実施した。

- ① 第1回 2025年 5月 28日 (水) 機械振興会館 (ハイブリッド)
 - ② 第2回 2025年 9月 24日 (水) (株)キャストム (ハイブリッド)
 - ③ 第3回 2025年 11月 20日 (木) 機械振興会館 (ハイブリッド)
 - ④ 第4回 2026年 3月 12日 (木) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- (5) 銅合金技術委員会 (委員長 岡根 利光)

テーマ：金型分科会(青銅合金の金型 casting)、標準化分科会、JIS 分科会
(JIS H 5120CAC400 系及び CAC500 系 casting への Bi,S の影響の調査)、
および、材料欠陥に関する WG)

- ① 第1回 2025年 6月 20日 (金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
 - ② 第2回 2025年 9月 29日 (月) 機械振興会館 (ハイブリッド)
 - ③ 第3回 2025年 12月 5日 (金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
 - ④ 第4回 2026年 3月 6日 (金) 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ・金型分科会：実験用 AM 造型立ち合い
- ① 2025年 12月 25日 (木)、26日(金) ものつくり大学
- ・材料欠陥に関する WG
- ① 第12回 2025年 4月 30日 (水) Web
 - ② 第13回 2025年 5月 23日 (金) Web
 - ③ 第14回 2025年 9月 3日 (水) Web
 - ④ 第15回 2025年 9月 22日 (月) Web
 - ⑤ 第16回 2025年 11月 19日 (水) Web
 - ⑥ 第17回 2025年 12月 25日 (木) Web
 - ⑦ 第18回 2026年 1月 30日 (金) Web
 - ⑧ 第19回 2026年 3月 9日 (月) Web

9. 環境に関する事項

エネルギー削減委員会 (委員長 山本 雅之)

【委員会】(カーボンニュートラル特別委員会 WG1 と共同開催)

- ① 第1回 2025年 6月 24日 (火) Web
- ② 第2回 2025年 11月 13日 (木) ~17日 (月) 書面
- ③ 第3回 2025年 12月 23日 (火) Web
- ④ 第4回 2026年 3月 23日 (月) Web

【エネルギー使用量調査の実施・結果の公表】

調査を実施し、第1報を casting ジャーナル 2026年 2月号に調査結果を公表。第2報 (軽合金・銅合金他) として、casting ジャーナル 2026年 4月号に掲載予定

10. 指導・教育・人材育成に関する事項

(1) 人材育成特別委員会 (委員長 大田 喜穂)

- ① 2025年 7月 7日 (月) 第1回人材育成特別委員会
- ② 2025年 11月 19日 (水) 第2回人材育成特別委員会 Web

- (2) 鑄造カレッジ企画運営委員会 (委員長 大田 喜穂)
(日本鑄造工学会の人材育成委員会と鑄造カレッジ合同委員会を運営)
- ① 2025年 5月 9日 (金) 第1回鑄造カレッジ合同委員会
(鑄造カレッジ受講生決定・書面会議)
 - ② 2025年 7月 18日 (金) 第2回鑄造カレッジ合同委員会
 - ③ 2026年 3月 17日 (火) 第3回鑄造カレッジ合同委員会 Web
- (3) 鑄造カレッジ現地責任者会議 (幹事長 北澤 幸廣)
- ① 2025年 9月 30日 (火) 第1回鑄造カレッジ現地責任者会議 機械振興会館
 - ② 2025年 12月 10日 (水) 鑄造カレッジ次年度カリキュラム打合せ Web
 - ③ 2026年 2月 3日 (火) 第2回鑄造カレッジ現地責任者会議 Web
- (4) 上級カレッジ委員会 (委員長 佐藤 万企夫)
- ① 第1回 2025年 7月 2日 (水) 機械振興会館 (ハイブリッド)
 - ② 第2回 2026年 3月 10日 (火) 機械振興会館
- (5) 新人教育研修プログラム委員会 (委員長 北澤 幸廣)
- ① 第1回 2025年 10月 30日 (火) Web
 - ② 第2回 2026年 3月 3日 (火) 機械振興会館
- (6) 2025年度鑄造カレッジは全地区共通 Web 講義を 30科目中、12科目導入し、
関東、東海、中国四国地区にて開催した。また、各地区インターンシップ、工場見
学を実施した。
- ① 2025年 5月 21日 (水) 鑄造技士セミナー、授与式
 - ② 2025年 6月 13日 (金) 鑄造カレッジ 関東・中国四国地区開講式
 - ③ 2025年 6月 14日 (土) 鑄造カレッジ 中国四国地区
 - ④ 2025年 6月 27日 (金) 鑄造カレッジ 東海地区開講式・関東地区
 - ⑤ 2025年 7月 11日 (金) 鑄造カレッジ 共通 Web
 - ⑥ 2025年 7月 25日 (金) 鑄造カレッジ 関東・東海・中国四国地区
 - ⑦ 2025年 8月 6日 (水) 鑄造カレッジ 共通 Web
 - ⑧ 2025年 8月 22日 (金) 鑄造カレッジ 東海・中国四国地区・鑄鋼専門 Web
 - ⑨ 2025年 8月 29日 (金) 鑄造カレッジ 関東地区
 - ⑩ 2025年 9月 3日 (水) ~ 5日 (金) 鑄造カレッジ 鑄鋼専門対面
 - ⑪ 2025年 9月 5日 (金) 鑄造カレッジ 東海地区
 - ⑫ 2025年 9月 8日 (月) ~12日 (金)
鑄造カレッジ 関東地区インターンシップ
 - ⑬ 2025年 9月 19日 (金) 鑄造カレッジ 共通 Web
 - ⑭ 2025年 10月 3日 (金) 鑄造カレッジ 東海・中国四国地区
 - ⑮ 2025年 10月 4日 (土) 鑄造カレッジ 関東地区
 - ⑯ 2025年 10月 17日 (金) 鑄造カレッジ 共通 Web
 - ⑰ 2025年 10月 31日 (金) 鑄造カレッジ 東海地区
 - ⑱ 2025年 11月 7日 (金) 鑄造カレッジ 中国四国地区
 - ⑲ 2025年 11月 14日 (金) 鑄造カレッジ 関東・東海地区

- ⑳ 2025年 11月 21日 (金) 鋳造カレッジ 中国四国地区
- ㉑ 2025年 11月 28日 (金) 鋳造カレッジ 東海地区工場見学
- ㉒ 2025年 12月 12日 (金) 鋳造カレッジ 中国四国地区工場見学
- ㉓ 2025年 12月 13日 (土) 鋳造カレッジ 中国四国地区
- ㉔ 2026年 1月 14日 (水) ～16日 (金)
鋳造カレッジ 東海地区インターンシップ前半
- ㉕ 2026年 1月 19日 (月) ～23日 (金)
鋳造カレッジ 中国四国地区インターンシップ
- ㉖ 2026年 1月 29日 (木) ～30日 (金)
鋳造カレッジ 東海地区インターンシップ後半
- ㉗ 2026年 1月 30日 (金) ～31日 (土) 鋳造カレッジ 関東地区工場見学
- ㉘ 2026年 3月 2日 (月) ～6日 (金)
鋳造カレッジ 鋳鋼コースインターンシップ

(7) 鋳造入門講座は前期会場版、後期オンライン版とし、年2回開催した。

- ① 2025年 4月 18日 (金)、19日 (土) 入門講座開講式、第1、2回講座
- ② 2025年 5月 22日 (木)、23日 (金) 第3、4回入門講座 Web
- ③ 2025年 6月 26日 (木)、28日 (土) 入門講座 第5、6回入門講座
- ④ 2025年 6月 27日 (金) 入門講座 現地研修
- ⑤ 2025年 7月 24日 (木) ～26日 (土) 第7、8、9 入門講座
- ⑥ 2025年 8月 29日 (金)、30日 (土) 第10、11 入門講座 Web
- ⑦ 2025年 9月 19日 (金)、20日 (土) 第12、13 入門講座、修了式
- ⑧ 2025年 11月 13日 (木)、14日 (金) 第1、2回入門オンライン講座
- ⑨ 2025年 12月 11日 (木)、12日 (金) 第3、4回入門オンライン講座
- ⑩ 2026年 1月 15日 (木)、16日 (金) 第5、6回入門オンライン講座
- ⑪ 2026年 2月 12日 (木)、13日 (金) 第7、8回入門オンライン講座

(8) 素形材団体との意見交換会

- ① 2025年 6月 24日 (火) 日本鋳造工学会
- ② 2025年 10月 2日 (木) 第1回素形材技術委員会 Web (素形材センター)

(9) 鋳造技術研修会

- ① 鋳鉄第1回 2025年 10月 22日 (水) 「築炉・溶解」 Web 36名参加
- ② 鋳鉄第2回 2025年 11月 21日 (金) 「方案・欠陥」 Web 43名参加
- ③ 軽合金 2025年 11月 27日 (木) ～28日 (金)
機械振興会館 13名参加
- ④ 鋳鉄第3回 2026年 1月 22日 (木) 「砂・造型法」 Web 33名参加
- ⑤ 鋳鉄第4回 2026年 2月 26日 (木) 「品質保証」 Web 30名参加

(10) 技術普及委員会

- ① 2025年 4月 16日 (水) 第1回 機械振興会館 (ハイブリッド)
- ② 2025年 10月 22日 (水) 第2回 Web
- ③ 2025年 11月 21日 (金) 第3回 Web

- ④ 2026年 1月 8日 (木) 第4回 Web
 - ⑤ 2026年 2月 26日 (木) 第5回 Web
 - ⑥ 2026年 3月 26日 (木) 第6回 Web
- (11) オンデマンド教育教材の作製及び会員への提供
2023年度に(公社)日本鑄造工学会と共同で作製したオンデマンド教育教材を会員等に無償提供するとともに、鑄造カレッジ受講生に対し、講義の予習・復習への活用を促進した。
- (12) 4団体共催・労働安全衛生研修会の準備
- ① 2025年 9月 9日 (火)
 - ② 2025年 10月 「熱中症対策アンケート」実施
 - ③ 2025年 11月 26日 (水)

1 1. 鑄造技士会活動に関する事項

鑄造カレッジを一定の成績で終了した受講生に対する協会認定制度「鑄造技士(Foundry Expert)」は、2025年度で1,437名を認定するに至る。この鑄造技士の技術のさらなる向上とネットワークの維持強化を図るための組織として、鑄造カレッジの7つの開催地区ごとに鑄造技士会を設立している。2025年度の各地区鑄造技士会活動は下記のとおり。

【東海鑄造技士会】

研修会 2025年 7月 18日 (金) 30名

【中国四国鑄造技士会】

工場見学会 2025年 10月 29日 (水) ~30日 (木) 29名

【関西鑄造技士会】

講演会 2026年 3月 6日 (金)

1 2. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会(委員長 清水 一道)

JIS及びISOに関する審議を行った。

1) 全体会議

- ① 第1回 2025年 11月 11日 (火) Web
- ② 第2回 2025年 11月 20日 (木) ~2025年 12月 5日 (金) 書面審議

2) 「新JIS 耐摩耗鑄鉄品」原案作成(新JIS原案作成準備委員会)

2025年4月~8月まで原案作成分科会および委員会にて審議し、改正原案を2025年8月末に日本規格協会に提出した。

- ① 第14回分科会 2025年 4月 3日 (木) Web
- ② 第15回分科会 2025年 5月 20日 (火) Web
- ③ 第1回委員会 2025年 7月 15日 (火) Web
- ④ 第16回分科会 2025年 8月 1日 (金) Web

- ⑤ 第2回委員会 2025年8月13日(水)～25日(月) 書面審議
- ⑥ 分科会(追加) 2026年3月5日(木)～19日(木) 書面審議
- 3) 「JIS G 5501 ねずみ鋳鉄品」
- 2025年12月15日(月)に本JISの原案作成団体である(公社)日本鋳造工学会と原案作成団体移管を協議した結果、関連する「JIS G 5502 球状黒鉛鋳鉄品」、「JIS G 5503 オーステンパ球状黒鉛鋳鉄品」など「可鍛鋳鉄品」以外の鋳鉄品のJISの原案作成団体である当協会への移管が決定した。
- 4) 「JIS H 5120 銅および銅合金鋳物」
「JIS H 5121 銅合金連続鋳造鋳物」
「JIS H 2202 鋳物用銅合金地金」
- 2024年度の第3回、第4回銅合金技術委員会にて検討した、一部銅合金鋳物の残余成分に関する見直しに対し、追補による改正を行う方向で準備を開始した。2026年度の原案作成委員会設置の申請を2026年2月に行った。
- 5) 「銅合金のエロージョン・コロージョン試験」に関する件
- 銅合金に係る上記JIS原案作成委員会に、銅合金技術委員会から事務局を含む2名の委員が参加した。原案作成委員会は下記の2回開催され、鋳造品の試験片に関して修正し、原案に反映させ、8月に日本規格協会に提出された。
- 第2回原案作成委員会 2025年4月1日(火)
第3回原案作成委員会 2025年5月15日(木)
- (2) ISO/TC25 国内審議委員会(委員長 浅野 和典)
- ISO/TC25の規格改定等に関する審議を行った。
- ① ISO185:2020 Grey cast irons — Classification
ISO2892:2007 Austenitic cast irons — Classification
同 TECHNICAL CORRIGENDUM 1:2009
ISO17804:2020 Founding — Ausferritic spheroidal graphite cast irons—
Classification
- の3件に対して、2025年4月15日(火)に5年毎の見直し確認依頼があり、国内審議委員会及び関係者に意見照会した結果、7月に変更なしで回答した。
- ② 第36回 ISO / TC 25 鋳鉄&鋹鉄の全体会議
国際会議(ロンドン): 2025年11月18日(火) Web
- 日本より浅野委員長と事務局が参加し、TC261/JG77とのLiaison報告として、日本提案のAM砂型(ISO59191)の原案作成状況を説明。来年の国際会議でも進捗を報告する。
- 新JIS制定中の耐摩耗鋳鉄品のISO21988:2006に対して成分範囲の変更などの提案があり、WG開催が決定した。鋳鋼の範囲までを含むなど提案には問題があるため、学識委員等にも協力を依頼して今後修正を求める。
- ③ 国内審議委員会:
- 第36回ISO/TC25鋳鉄&鋹鉄の全体会議に先立ち、2024年11月11日(火)に国内審議会をWebで開催し、ISO21988:2006(耐摩耗鋳鉄)の中国提案等に対

する意見を取り纏めた。さらに、全体会議終了後の、2025年11月20日（木）～2025年12月5日（金）に、その議事録の内容伝達と意見集約の目的で書面審議を実施した。2026年3月11日（水）に Web にて、上記 ISO21988:2006（耐摩耗鋳鉄）の改訂に対する第1回国際会議が開催され、前日に耐摩耗鋳鉄に関わる関係者と Web 会議で取り纏めた意見を伝え、今後審議されることになった。

※このほか、他団体主催の TC25 に関連する以下 ISO 国内審議委員会へ事務局がオブザーバーとして参加している。

- ・ ISO/TC213 国内審議委員会（主催：（一財）日本規格協会）
ISO/TC213 グループ A 国内委員会及び JIS 素案作成準備委員会
- ・ ISO/TC261 国内審議委員会（主催 日本溶接協会）
AM 砂型に関する ISO 規格原案作成委員会にも参画

1.3. 設備・原材料等に関する事項

(1) ISO/TC306 国内審議委員会（委員長 平田 実）

ISO/TC306（鋳造機械規格）の国際規格制定等に関する審議を行った。

- ① 2025年 5月 2日（金）国内審議委員会 Web
- ② 2025年 7月 17日（木）国内審議委員会 Web
- ③ 2026年 3月 9日（月）国内審議委員会 Web

(2) ISO/TC306 国際会議

2025年 11月 27日（木）国際総会（ハイブリッド）

(3) 展示会の検討

機材部会及び設備・資材委員会において、展示会の開催について検討し、機材部会及び設備・資材委員会のメンバーに対して展示会開催に関するアンケート調査を複数回に渡って実施した。結論としては、2026年9月開催に向けて実行委員会を設置し、開催準備を行うこととした。

1.4. 国際交流に関する事項

(1) 国際会議・海外セミナー等への参加

1) 世界精密鋳造会議（WCIC）、国際精密鋳造セミナー（ISIC）等精密鋳造関係

- ① 2025年 4月 2日（水） 第17回 WCIC/ISIC 実行委員会 対面
- ② 2025年 5月 11日（日） EICF リバプール大会（プレゼンビデオ送付）
- ③ 2025年 6月 9日（月） 第18回 WCIC/ISIC 実行委員会 対面
- ④ 2025年 7月 3日（木） 第11回精密鋳造国際委員会・
第19回 WCIC/ISIC 実行委員会 対面
- ⑤ 2025年 8月 27日（水） 第20回 WCIC/ISIC 実行委員会 対面
- ⑥ 2025年 9月 9日（火）～12日（金） WCIC 神戸大会
- ⑦ 2025年 10月 30日（木） 第12回精密鋳造国際委員会
機械振興会館（ハイブリッド）

⑧ 2026年 3月 18日（水） 第13回精密鑄造国際委員会
機械振興会館（ハイブリッド）

2) YPP (Young Professional Program) 委員会

- ① 2025年 7月 18日（金）国内委員会（Web）
- ② 2025年 12月 16日（火）国内委員会（Web）
- ③ 2026年 3月 11日（水）国内委員会（Web）

1 5. 労働安全衛生に関する事項

(1) リスクアセスメントの普及活動

鑄造業における安全衛生対策の推進のため、リスクアセスメントの普及活動として、4団体合同で研修会を開催した（詳細は、前掲「V. 1. (6) 安全衛生対策セミナー」を参照）。

(2) 化学物質規制の見直しに関する情報提供

2024年度から施行されている「化学物質規制」に関する情報を、技術部会及び協会会員に対し、周知徹底した。内容は、①ラベル・SDSの伝達や、化学物質のリスクアセスメント対象物質の大幅な増加、②リスクアセスメント結果に基づき、リスク低減対策の実施、③労働者への適切な保護具を使用させること、④化学物質の自律的な管理の導入、⑤化学物質管理者の選任義務などを含むため、各社・各事業所にも影響する内容である。

(3) 職場における熱中症対策の強化に関する改正労働安全規則施行（2025年6月発効）に関する情報提供

熱中症の恐れのある労働者を早期に見つけ出し、その状況に応じ、迅速かつ適正に対処することにより、熱中症の重篤化を防ぐために、「体制整備」、「手順作成」、「周囲への周知」が事業者には義務付けられていることを技術部会の部会員、及び協会会員に周知徹底した。

1 6. 表彰に関する事項

日本鑄造協会の協会賞として、2024年12月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞の募集を行い、3月に選考を行った。

2024（令和6）年度に決定した下記受賞者の表彰式を2025年5月の春季大会において行い、表彰状・記念品等を贈呈した。

【協会功労賞】

丹羽 龍 氏（丹羽鑄造株式会社）
石川 義明 氏（石川金属機工株式会社）
高階 重昭 氏（花王クエーカー株式会社）

【技術賞】

八幡 一義 氏（アイシン高丘株式会社）

17. 会員の叙勲・褒章の受章候補者の推薦ならびに申請

2026年度以降における会員企業の叙勲（含叙位）候補者を経済産業省に登録した。

18. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

(1) 機関誌編集委員会（委員長 紺野 敏之）・「鑄造ジャーナル」の発行

「鑄造ジャーナル」を企画・編集する機関誌編集委員会を開催し、毎月年12回発行した。また、各月の掲載内容が分かるよう協会ホームページに鑄造ジャーナルの目次を掲載した。

- ① 2025年 4月 9日（水）機械振興会館
- ② 2025年 5月 7日（水）機械振興会館
- ③ 2025年 6月 12日（木）神戸ポートタワーホテル（12～13日 兵庫県 3社工場視察）
- ④ 2025年 7月 4日（金）機械振興会館
- ⑤ 2025年 8月 8日（金）機械振興会館
- ⑥ 2025年 9月 8日（月）機械振興会館
- ⑦ 2025年 10月 8日（水）機械振興会館
- ⑧ 2025年 11月 10日（月）機械振興会館
- ⑨ 2025年 12月 5日（金）機械振興会館
- ⑩ 2026年 1月 7日（水）機械振興会館
- ⑪ 2026年 2月 6日（金）機械振興会館
- ⑫ 2026年 3月 5日（木）機械振興会館

(2) 協会ホームページによる情報提供

協会ホームページの会員専用ページとEメールを活用し、各種情報の迅速な提供を行い情報発信の強化を行った。

(3) 最近の鑄造業界動向の発行

本会の四半期調査や鑄造に関連する公的統計から鑄造業界に関する動向をまとめた「最近の鑄造業界動向」を毎月計12回発行した。

(4) その他広報事業

- ① 新聞・雑誌等への取材協力を行った。
- ② 需要業界における各種調査研究資料の収集と提供を行った。
- ③ 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供を行った。
- ④ その他、業界発展のための広報・情報活動を行った。

(5) 普及啓蒙事業

- ① 経営、技術及び海外情報に関する相談業務
- ② 新技術開発・新製品開発に関する紹介

(6) その他情報の提供

- ① 法律、制度、経営、技術及び労働に関する情報の提供
- ② 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
- ③ 内外の関係情報の提供

19. 創立20周年記念事業に関する事項

2025年7月1日に創立20周年を迎えたため、創立20周年記念事業の検討・企画・運営を行う創立20周年記念事業実行委員会及び記念式典・祝賀会WG、記念誌・ジャーナルWGを総務部会傘下に発足し、検討を行った。

創立20周年記念式典・祝賀会は2026年新年賀詞交歓会を兼ねて2026年1月29日（木）に開催した。併せて20周年記念誌発行及び鑄造ジャーナル特集を企画し、鑄造ジャーナルには2025年6月号から2026年3月号まで特集を掲載、20周年記念誌は2026年5月に発行（予定）し、5月20日の春季大会時に配布予定。

(1) 創立20周年記念事業実行委員会（委員長 佐藤 孝造）

- ① 第4回 2025年 5月 13日（火）ハイブリッド
- ② 第5回 2025年 6月 24日（火）Web
- ③ 第6回 2025年 8月 21日（木）Web
- ④ 第7回 2025年 10月 27日（月）ハイブリッド

(2) 創立20周年記念式典・祝賀会WG（リーダー 永森 久之）

- ① 第4回 2025年 4月 21日（月）Web
- ② 第5回 2025年 6月 11日（水）Web
- ③ 第6回 2025年 7月 30日（水）Web
- ④ 第7回 2025年 9月 30日（火）Web

(3) 創立20周年記念誌・ジャーナルWG（リーダー 紺野 敏之）

- ① 第4回 2025年 4月 23日（水）Web
- ② 第5回 2025年 5月 27日（火）Web

20. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書、視聴覚教育資料等の斡旋
- (2) 工場視察及び見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物における表彰状若しくは感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

21. 諸規程類の整備・充実に関する事項

法令改正等に伴い、以下の規程を制定、改正又は廃止を行った。

- ① ISO/TC 国内審議委員会運営規約（TC25 及び TC306）の制定
- ② 育児休業規程及び介護休業等規程をするとともに、これらに代わる育児・介護休業等に関する規程の制定
- ③ 育児・介護休業等に関する規程の制定に伴う就業規則の改正
- ④ 若手経営者全国大会の名称変更に伴う若手経営者全国大会運営基金運用規程の改正

22. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

VI. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 東海支部（支部長 竹内 浩二）

(1) 総会：2025年4月10日（木） ウィンクあいち・WEB

講演会（総会に合わせて開催）

① かつこよく！伝統産業である鋳物づくりを持続可能に～選ばれる企業づくり～

講師：城田鋳工㈱ 代表取締役社長 城田 大資

② 錦正工業が考える人とのものづくりの未来

講師：錦正工業㈱ 代表取締役 永森 久之

(2) 工場見学会

① 【地区外：広島地区】 参加者数：30名

日程：2025年7月24日（木）～25日（金）

工場見学先：㈱キャステム、㈱北川鉄工所、㈱黒野金属

② 【地区内：岐阜地区】 参加者数：30名

日程：2025年11月28日（金）

工場見学先：㈱マツバラ、鍋屋バイテック㈱

(3) 講習会（鋳造工学会事業に協賛）

会場：刈谷シャインズ（現地＋リモートのハイブリッド形式）

① 鋳鉄の基礎講座

日程：2025年6月28日（土）、参加者数 55名

② 鋳鉄の中級講座

日程：2025年8月30日（土）、参加者数 33名

③ アルミニウム鋳造講座Ⅰ

日程：2025年8月2日（土）、参加者数 64名

④ アルミニウム鋳造講座Ⅱ

日程：2025年9月6日（土）、参加者数 28名

⑤ 鋳造技術講習会

日程：2025年10月24日（金）、参加者数 51名

(4) 役員会、本部報告会

① 前期日時：2025年4月10日（木）、会場 ウィンクあいち

② 後期日時：2026年1月23日（金）、会場 ウィンクあいち

2. 北陸支部（支部長 山本 洋）

(1) 総会：2025年4月18日（金） コマツ氷見工場会議室

(2) 講演会・技術講習会

① 技術講演会（ものづくり大学 鈴木克美名誉教授）

日程 2025年9月26日（金） 参加者数：63名

会場 高岡市生涯学習センター 研修室

② 鑄造初級講座

日程 2025年7月30日(水)～31日(木)、参加者数：25名
会場・座学 石川県地場産業振興センター 本館
・工場見学 (株)明石合銅

③ 現場改善事例発表会

日程 2025年12月15日(月)、発表企業：6社、参加者数：42名
会場 WEB開催

(3) 工場見学会(鑄造工学会北陸支部との共催事業)

日程 2025年11月27日(木)、参加者：42名
見学企業：鍋屋バイテック会社 美濃工園、(株)マツバラ 関工場

3. 中国四国支部(支部長 藤原 慎二)

(1) 総会

2025年4月9日(水) 広島ガーデンパレス 参加者：64名
講演会：「企業を取り巻く最新の法律問題とSNSリスクへの対応」
講師：小林裕彦法律事務所 弁護士 中尾 一清

(2) 秋季講演会

2025年11月20日(木) ラヴィール岡山 参加者：58名
講演会：「トランプ関税による我が国経済への影響と取引適正化に向けた取組みについて」(講師：経済産業省製造産業局素形材産業室 杉浦 寛)
「特定技能外国人制度の現況と育成就労制度の検討状況(概要)」
(講師：当協会 副会長兼専務理事 鈴木 晴光)

(3) 理事会

第1回 2025年4月9日(水) 広島ガーデンパレス
第2回 2025年7月29日(火) 広島県鑄物工業協同組合
第3回 2025年11月20日(木) ラヴィール岡山
第4回 2026年2月17日(火) 広島県鑄物工業協同組合

(4) 教育事業

- ・中国四国地区鑄造カレッジ開催

講義：2025年6月13日(金)～2026年1月23日(金)
講座：30コマ、受講者：24名、広島県鑄物工業協同組合及びWebにて実施
インターンシップ(5日間)：ヨシワ工業(株)及び広島市工業技術センター

(5) 中国四国地区鑄造技士会活動支援

- ・鑄造技士会工場見学会

2025年10月28日(火)～29日(水)、参加者：29名

- ① (株)ダイハツメタル 出雲工場
- ② ヤンマーキャステクノ(株) 松江事業部

VII. 関係官庁等への協力に関する事項

1. 適正取引推進のための各種委員会への委員推薦・出席

- (1) 素形材取引適正化委員会（藤原会長が委員）
前掲のV. 3. (1) ①の「素形材取引適正化委員会」を参照
- (2) 自動車取引適正化研究会（藤原会長が委員）
前掲のV. 3. (1) ②の「自動車取引適正化研究会」を参照
- (3) 自動車サプライチェーン取引適正化会議（鈴木副会長・専務理事が委員）
前掲のV. 3. (1) ⑦の「自動車サプライチェーン取引適正化会議」を参照

2. 中央能力開発協会への技能検定委員推薦、技能検定の型の斡旋

- (1) 中央技能検定委員の推薦
鋳造に関わる各種作業の検定委員を推薦した。
- (2) 型の斡旋
技能検定実技試験模型（鋳造1級、鋳造2級（含随時）、鋳造3級（含随時））の作製を斡旋した（15件 計40型）。

3. 「中小企業経営強化法」関連の証明書発行

中小企業等経営強化法の設備に係る仕様等証明書を発行した（38件）。

VIII. 関係団体との交流に関する事項

1. 素形材団体交流委員会

素形材に関する交流促進や普及啓発を議論し実施する場として、（一財）素形材センターが主催する素形材団体交流委員会に鈴木専務理事が委員長として出席した。

2. 素形材産業優良従業員表彰委員会

（一財）素形材センターが主催する素形材産業優良従業員表彰委員会に、鈴木専務理事が委員として出席した。

3. 鋳物関連団体への協力

- (1) （公社）日本鋳造工学会の講演大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援
- (2) （一財）素形材センターの素形材月間事業（11月）への後援
- (3) 島根県鋳造関連産業振興協議会総会（7月28日・松江市）に藤原会長及び鈴木専務理事が出席し、本会の活動概要等を報告した。
- (4) 素形材団体等が実施する事業への後援等

IX. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

- (1) 未加入の企業、組合員の正会員への加入、賛助会員から正会員への所属変更を促進した（16社加入）。
- (2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した（4社加入）。

2. 会員及び組織に関する事項

- (1) 正会員及び賛助会員（2026年3月31日現在）
 - ① 法人正会員 353社
 - ② 団体正会員 32組合（434社）
 - ③ 賛助会員 49社
- (2) 理事・監事・協会役員・顧問・参与名簿（別紙1参照）
- (3) 協会事業運営組織図（別紙2参照）
- (4) 部会委員・支部長名簿（別紙3参照）
- (5) 協会事務局組織図（別紙4参照）
- (6) 協会活動状況一覧表（別紙5参照）